

令和2年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人岡山文化芸術創造	
施 設 名	岡山シンフォニーホール	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	20,067	(千円)
	公 演 事 業	14,025 (千円)
	人 材 養 成 事 業	2,963 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	3,079 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	岡山フィルハーモニック管弦楽団第64回～67回定期演奏会	2020年10月18日他※	出演：熊倉優、郷古廉、竹澤恭子 他 曲目：ヴァイマルティ/「四季」、シューベルト/交響曲「未完成」、ブルッフ/ヴァイオリン協奏曲 他	目標値	5,520
		岡山シンフォニーホール		実績値	1500※
2	ホールフェスティバル「シンフォニーは友達！2020」	2020年8月3日(中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	1,800
		岡山シンフォニーホール		実績値	—※
3	岡山フィルハーモニック管弦楽団 特別演奏会	2020年12月6日	出演：川瀬賢太郎、岡山フィルハーモニック管弦楽団 曲目：ベートーヴェン/交響曲 第5番、第7番 (事前の合唱練習が難しく、曲目変更で開催)	目標値	1,600
		岡山シンフォニーホール		実績値	1300
4	岡山フィルハーモニック管弦楽団 ニューイヤーコンサート	2021年1月17日	出演：キンポー・インイ、梅村知世 他 曲目：モーツァルト/歌劇「ドン・ジョヴァンニ」序曲、ピアノ協奏曲 第21番、交響曲 第40番	目標値	1,500
		岡山シンフォニーホール		実績値	700※
5	岡山フィルハーモニック管弦楽団 特別演奏会(東日本震災10年/西日本豪雨災害 復興祈念)	2021年3月13日	出演：熊倉優、竹澤恭子 他 曲目：ウェーバー/歌劇「魔弾の射手」序曲、ブルッフ/ヴァイオリン協奏曲、ベートーヴェン/交響曲 第5番	目標値	650
		総社市民会館		実績値	370※
6	ミュージカル ～おかやま桃太郎伝説～「鬼の鎮魂歌(レクイエム)」	2020年12月19日(中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	1,700
		岡山シンフォニーホール		実績値	—※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ミュージカルワークショップ	2020年4月～2021年3月※	コーディネーター：四宮貴久 講師：古川恭子、横山佳奈子 他 成果発表公演演目：コーラスライン	目標値	52 (楽しむコース20・しっかり学ぶコース32)
		岡山シンフォニーホール 他		実績値	入場者330・参加者54※
2	あなたも岡フィルと共演 しませんかシリーズ XVII am a SOLOIST	2020年9月27日	出演：中井章徳、山田芽衣子 他 曲目：メンデルソーン/ピアノ協奏曲 第1番 第1楽章 他	目標値	入場者850・参加者10
		岡山シンフォニーホール		実績値	入場者400・参加者10※
3	2020 MOST in Japan 岡山公演	2020年10月9日	出演：福田廉之介、竹田樹莉果 他 曲目：ハッハ/2つのヴァイオリンのための協奏曲 他	目標値	入場者850
		岡山シンフォニーホール		実績値	入場者700・参加者3※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	小・中学校音楽鑑賞教室	2021年2月2日※	出演：柴田真郁、柁木和敬 他 曲目：小六禮次郎/烏城浪漫、ビゼー/歌劇「カルメン」より“闘牛士” 他	目標値	1,000
		岡山シンフォニーホール		実績値	351※
2	ファミリーコンサート	2021年1月24日※	出演：山上純司 他 曲目：モーツァルト/歌劇「フィガロの結婚」序曲、シュトラウスII/ホルン「観光列車」 他	目標値	800
		岡山シンフォニーホール イベントホール		実績値	配信視聴 150※
3	レインボーコンサート	2020年9月2日※	出演：岡フィル弦楽四重奏 曲目：モーツァルト/アイネクライネナハトムジーク 他	目標値	400
		たねの国こども園 他		実績値	110・配信 視聴 163※
4	岡山大学Jホール レインボーコンサート	2020年4月～2021年3月(中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	目標値	1,800
		岡山大学Jホール		実績値	—※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

優れた音響性能を持ち、広域圏からのアクセス性の良さ、歴史文化エリアの中心に位置するシンボル性の高さ等を併せ持つ当ホールは、ホール付きオーケストラを文化装置として地域社会の活性化に貢献すべく、「文化芸術性・都市ブランドの向上」「心豊かな教育への貢献」「明日を担う人材の育成」「社会的包摂の取組推進」「岡山の活性化」をテーマに様々なステークホルダーと連携し、幅広い対象者に向けて事業を組み立てた。

しかし、年度当初から新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、緊急事態宣言の発出やあらゆる制限により、計画した事業を開催することが難しく、状況が見えない中で最善の方法を模索しながら事業を再構築する必要があった。

新型コロナウイルス感染拡大の影響は、次の通りである。

【公演事業】

6公演中2公演が中止となり、公演内容が合唱や歌のものに関しては感染リスクを回避するため、やむなく中止や内容を変更しての開催となった。曲目、指揮者、ソリストの変更が相次いだ。

【人材養成事業】

3公演全て開催できたが、収容人数が2分の1となる公演もみられた。また長期間のレッスンを擁するミュージカルでは、レッスンそのものをリモートで行うなどの通常年と異なる対応が求められた。

【普及啓発事業】

4公演中1公演が中止となり、2公演がインターネット配信での開催となった。また開催に至った催しも、当初の開催予定日からの大幅な日程変更を余儀なくされた。小学校・中学校・支援学校を対象とした鑑賞教室であったため、申し込み校からのキャンセルが相次ぎ、観客動員数は当初予定の3分の1であった。特に影響が大きかったものとしては、社会貢献を目的として病院施設や福祉施設を会場に演奏を計画していた「レインボーコンサート」であった。コロナ禍における病院敷地内での演奏は難しく、連携先との協議の結果、感染リスク回避のためほとんどが中止となった。そんな中でも、病室のTVモニターなどへのライブ配信という新しい試みに挑み、地域住民への屋外コンサートなどを行うなど柔軟にかつ粘り強く演奏活動を行った。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

一年間を通じて新型コロナウイルス蔓延による影響は免れようがなく、予定していた公演の中止や観客動員数の低下など顕著な影響がみられた。一方で、自由に演奏会に参加できないなどの状況に置かれたことで、鑑賞者からは「生演奏が聴けることの素晴らしさに気付いた」などの意見がアンケートで見られた。

事業における文化的・社会的・経済的意義は以下のように分析される。

【文化的意義】観客数を50%に制限しつつ再開した演奏会において、「生演奏が聴けることの素晴らしさ」「嬉しさ」「癒やし」「当たり前ではない」「心の栄養」という意見がアンケートで多く見受けられた。「生の音の力は格別（中略）やっと帰ってきてくれた」というお客様の声を地方新聞が記事として掲載するなどもあり、岡山という地域において文化芸術への関心がコロナ禍であっても高く保たれていることを証明した。

【社会的意義】小中学生を対象にした音楽鑑賞教室では、鑑賞後「子どもたちがそれぞれ好きになった曲などについて話していた」などの効果を聴くことができ、音楽のもたらす影響力を痛感できる機会となった。

【経済的意義】賛助会員の増加に加え、公演中止となった演奏会のチケット代金の寄付などが見られた。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【公演事業】

オーケストラを活用した豊かで多様な音楽芸術の創造・発信を通じて、岡山独自の魅力を発信し、鑑賞者の拡大と地域における実演芸術の振興を図ることを目標に、4公演を開催した（2公演は新型コロナウイルス感染拡大防止の影響を受け中止となった）。アンケートの結果から達成率（実績値÷目標値）を算出したところ、①公演満足度が実績値 86.5%（目標値 93%、達成率 93%）、②地域への普及度（アンケート項目：「身近な人にも公演を勧めたいと思うか」）実績値 90.4%（目標値 95%、達成率 95%）、④市外からの観客割合 実績値 36.1%（目標値 37%、達成率 97%）が目標に対して高い数値を示しており、実演芸術の振興を図ることができたこと、オーケストラが市外からも人を集客できるだけの影響力を有していることが推し量られた。

一方で目標達成率の低い項目は③子ども（10代以下）の観客割合が実績値 4.0%（目標値 7%、達成率 57%）、⑤社会包摂の取り組みでの公演招待者数（ひとり親家庭・震災・災害被災者等）3公演で38人（達成度 5公演で200人、達成率 31.6%）である。④は音楽人口の裾野を広げるためにも今後継続して取り組むべき課題である。一方で⑤は蔓延中の新型コロナウイルスの影響が顕著であったと言える。

【人材養成事業】

活躍中の経験豊富な講師陣のもと、地域の芸術文化を担うアーティストの育成や支えていく文化リーダーを養成するとともに、その表現の機会を提供し、地域の芸術文化の振興を図ることを目標とする事業について、達成度を確認した。アーティストの育成・文化リーダーの養成を目標とした「ミュージカルワークショップ」では受講生各自が目標を立てて取り組み、自己評価と講師陣からの他己評価の両面で確認する形式とした。オーケストラと共演できる「I am a SOLOIST」においては、ソリスト達が各自で目標を定めた。こちらでは本番を迎えるまでの過程で、音楽的なことのみならず精神面でも非常に学びの多い経験となったことが各々を大きく成長させ、本番での自身の演奏に88.9%が満足したと回答した。また、「I am a SOLOIST」を経験した若手演奏家の企画「The MOST」ではソリストに選出された地元の小中学生3人が若手演奏家たちと一緒に舞台上立つという経験を通して、舞台上立つ楽しみを見だし、将来のソリストを目指して更なるステップアップを掲げ、先輩演奏家の姿を追って前進していこうという意欲がうかがえた。

【普及啓発事業】

オーケストラを活用し、未来を担う子どもたちや交流の機会の少ない病院・福祉施設等の人々を対象に、本物の音楽体験の機会を提供し、心豊かな生活を送る一助となることを目標に活動した。活動のもたらした効果をアンケート項目等により確認した。

岡山シンフォニーホールを会場とした「小中学校音楽鑑賞教室」はコロナの影響による日程の延期や学校側からのキャンセルもあったため、岡山市内小中学校参加率（累計）は44.8%（目標値 47%）に止まった。ただ、初めてのオーケストラ体験の割合は55.2%（目標値 35%）と目標値を大きく上回る結果となった。また、教師からも「期待した効果の有無」について76.9%が「効果があった」と回答があり、「子どもたちは生の演奏に触れたことで文化芸術の楽しさを知り、心を動かされた」という感想も見られた。

アンケート結果からは「体験、表現する楽しさ喜びを実感できる機会」、「学校生活に変化を求める」「音楽の楽しさを体験できた」、「生活の潤い」、「落ち着き」、「精神的ゆとりをもって日々を過ごせる」、「子どもの感想に心を動かされた」などの記述がみられた。これらからは、例年以上に様々な制限や窮屈さを感じて生活をせざるを得ない子どもたちにとって、音楽が癒しの時間を与えることができた結果であると分析できる。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【事業期間について】

年度当初から新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、計画していた進行スケジュールが大きく覆された。開催中止・または日程変更となった事業は、次の通りである。

- ・公演1 岡山フィルハーモニック管弦楽団第64回～67回定期演奏会：4公演のうち2公演中止
- ・公演2 ホールフェスティバル「シンフォニーは友達!」：中止
- ・公演6 ミュージカル～おかやま桃太郎伝説～「鬼の鎮魂歌」：中止
- ・普及1 小・中学校音楽鑑賞教室：6月から2月に日程を変更して開催
- ・普及2 ファミリーコンサート：2公演のうち1公演中止
- ・普及3 レインボーコンサート：5公演のうち2公演中止
- ・普及4 岡山大学Jホールレインボーコンサート：12公演全中止

延期か中止の判断に加えて、内容の変更、チケット販売の対応、客席数の検討、公演再開に向けての調整等判断に迷う事柄が多く、刻々と変動する状況を見ながらの対応に追われたため、当初予定していたスケジュールとは全く異なる日程での開催となった。

最も大きく影響を受けた事業は普及啓発事業であった。演奏会場を病院施設内や福祉施設を予定していたため、実施は難しく一度も開催できぬまま中止が決定した。

普及啓発事業1「小・中学校音楽鑑賞教室」では、当初6月の開催を予定していたが、2月に日程を変更しての開催となった。そのため、出演者のみならず参加校の決定もやり直しとなった。

開催日程はそのままだが、無観客での配信となった事業もあった。普及啓発事業の2「ファミリーコンサート」、3「レインボーコンサート」である。共同主催者との協議で最終的に無観客配信での開催となった。これまでにない段取りとなったほか、配信ではお客様の反応を直接感じるができないことから、演奏者にとっては非常にやり辛い演奏となったようである。

予定とあまりに異なるスケジュールでの運用となったため、当初の事業期間が適切であったかについては判じかねる。計画通りに進めることは叶わなかったが、緊急時であっても一部の事業は完遂できた。

【事業費について】

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言などを受けて、当初計画していた各事業は見直しが求められた。公演事業では一部公演が中止及び変更となり、当初計画の約50%減額、普及事業においても当初計画の約65%減額の事業費となり、活動計画を変更しての実施となったが、人材養成事業の事業費についてはほぼ計画通りに進んだ。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

当ホールはオーケストラ「岡山フィルハーモニック管弦楽団」(以下、岡フィル)を持ち、それを文化装置として地域社会の活性化に貢献すべく、公演事業(定期演奏会を含む5公演)、人材養成事業(岡フィルとの共演1公演)、普及啓発事業(青少年向け1公演、ファミリー向け1公演、社会貢献3公演)に取り組んだ。

公演事業では5公演のうち3公演を開催した。コロナ禍での公演再開第1弾となった10月18日の定期演奏会では「生の音の力は格別。生活の一部になっている岡フィルがやっと帰ってきてくれた」というお客様の声が聴かれた。この内容は岡山の地方新聞でも取り上げられた。また、2021年3月13日に総社市民会館で行った特別演奏会では、コロナ禍において窮屈な日々を送る人々にとって「生の音楽体験」が心の癒しになったとみられ、公演満足度は83%と高い結果であった。

人材養成事業においては、「ミュージカルワークショップ」と演奏会「The MOST」を開催した。

「ミュージカルワークショップ」では、事業終了後にも継続を希望する受講生が多くみられた。長い練習時間の積み重ねにより、自己の成長を自覚できた参加者が多かったと思われる。新規に参加したメンバーからは、継続している受講生とは異なる視点での提案もあり、互いに意見を交わしながら切磋琢磨の様子を見る事ができた。コロナウイルス感染拡大防止の影響を受け、当初予定していた対面でのレッスンが動画レッスンやオンラインレッスンに変更となり、受講生たちはモチベーションを保つことが難しかったと思われる。そんな中、年度当初にたてた自身の目標の達成度について、11月に行った中間アンケートでは平均58.7%であったものが、3月の最終アンケートでは平均65.4%へと上昇しており、自分自身を見つめ直し、課題をみつけて取り組むという取り組みにより、精神面での成長が数字にも反映されたと言えるだろう。

オーケストラとの共演が大きな目玉である「あなたも岡フィルと共演しませんかシリーズ XVI I am a SOLOIST」は、若い音楽家育成のための事業であり、オーディションにより選出された演奏家たちにコンチェルトの演奏機会をもうけたものであった。指揮者やオーケストラとの共演の中から得られるものは大きく、ソリスト自身が作りたい音楽を指揮者やオーケストラに伝え、表現するかというこれまでにない経験を経ることになった。本番を迎えるまえの過程は各人を大きく成長させ、音楽的なことのみならず精神面でも非常に学びの多い経験となったようだった。全力を注いだソリストたちの演奏からは、その熱量が十分に観客にも届いたとみられ、来場者アンケートでは満足度は86.2%と高く、今後への期待が高い事業となった。

「The MOST」では、「I am a SOLOIST」から羽ばたいた演奏家たち自ら企画した事業である。次世代の音楽家たちが舞台に立つ機会を提供したいという思いから企画されたものであり、オーディションを受けた岡山県内の小中学生11名のうち3名が選ばれて、若年層の育成に力を注いだ。あこがれのホールのステージに立つという夢を実現したことで、「The MOST」のメンバーとの共演を果たした。この経験はその前後でソリストたちの意識も変えたようである。舞台に立つ楽しみを見出し、将来のソリストを目指して、さらなるステップアップを掲げ、先輩の姿を追って前進していこうという意欲がうかがえた。参加した中学3年生、小学6年生、小学3年生のプレイヤーたちからは、「感動を与えられる演奏家になり、また共演したい」「また大きな舞台に立ちたい」「世界で活躍する演奏家になりたい」などの具体的な課題や目標を聞くことができた。これらからもわかるように、本事業は次世代を担う若い芸術家の育成に大きく貢献したといえる。

上記の様に、当事業では岡山シンフォニーホールを起点として、若い芸術家たちの成長を支えてきた。これらの事業を通して若い芸術家たちを見守る大人たち、周囲の街の人々からは応援と期待の声が多く寄せられている。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

コロナ禍のため、多くの事業が想定以上に中止、延期を繰り返すこととなり、思うようには開催できないもどかしさを感じながらも、政府や自治体等による新型コロナウイルス感染症拡大予防のためのガイドラインを遵守しながら、館をあげて感染予防対策を徹底し、できる限りの事業を行った。

「おらが町のオーケストラ」として地元岡山の皆様に誇りと愛情を傾けていただいている岡山フィルハーモニック管弦楽団も、定期演奏会を含めて約半年間の演奏活動停止を余儀なくされた。10月に演奏を再開した際には、生演奏を待ちわびた地域の人々の温かい拍手に迎えられ、この出来事は、地方新聞紙においても取り上げられた。

自由に演奏を聴くこともままならない状況を経験したためか、演奏会会場で行ったアンケートにおける「地域への普及度」は90%と高く、音を聞くことができなくなったことでかえって地元オーケストラの存在の必要性を認識いただけたことがうかがえる。プレイヤーたちの演奏に注ぐ熱情もお客様に伝わったと見え、開催が実現した定期演奏会と特別公演を合わせた5公演の平均満足度は86%（目標93%）と、目標には及ばないながらも高い値となった。

また、「岡フィル」という文化装置を持つ強みを活かして、県内の他の地域で出張公演を行った。3月の総社公演では「地元地域でオーケストラを鑑賞できた」という喜びが満足度91.8%というアンケート結果に繋がり、「身近な人にすすめたい」との回答も93.4%と高く、これらからは音楽を届けた当事業が総社地域の人々に大きな喜びと癒しをもたらしたと考えられる。

このほかにも、コロナ禍での窮屈な日常生活を強いられる人々に向けて、ドライブインシアターとのコラボによるものを始め、屋外でのコンサートや病院内配信コンサートなどコロナ禍における新たなスタイルによる公演にも挑戦した。「ひとときの安らぎを感じ、またリフレッシュできた」という感想が聞かれた。

新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けての開催となった「小・中学校音楽鑑賞教室」は、日程を変更し、2月に開催した。参加希望校のキャンセルもありつつ、岡山市内の小・中学校5校を迎えての開催となった。子どもたちへのアンケートでは、95%が「楽しめた」と回答し、「元気が出た、穏やかな気持ちになった」との回答は23%であった。回答したうちの半数以上がはじめてオーケストラの演奏を体験する子どもたちであるなかで、上記の結果は、「オーケストラは楽しい」という第一印象を与えることに十分に成功したと言える。さらには例年と異なる様々な制限や窮屈さを感じて生活せざるを得ない子どもたちに、音楽による癒しの時間を与え、未知の体験への興味関心を引き出す時間を作ることができたと考えられる。これらは、地域文化の発展に欠かせない若年層の芸術への関心を育てる効果として十分に機能しており、将来の音楽・芸術・文化の担い手を育てる初手を担う活動を当事業が担っていると言えよう。教師たちへのアンケートでも、「期待した効果の有無」について「効果があった」との回答が76.9%であり、音楽が子どもたちに行動変容をもたらしたと言えるだろう。

地域の芸術文化施行を担う中核となる人材の育成を目標とした「ミュージカルワークショップ」では、国内外で活躍中の講師陣による専門的で継続性のある質の高いレッスンを行うことで、参加者の基礎力の向上と創造性の発展を図った。

対面でのレッスンが叶わない時期もあり、動画配信レッスンやオンラインレッスンに切り替えながら様々な方法でレッスンを試みた。参加者は通常年とは異なる環境の中で自身のモチベーション維持に苦慮した様である。しかし、自分自身を見つめ直し、課題をみつけて取り組むなど、自己研鑽に励むことで、目標としていた公演では各自がそれぞれの力を発揮できた。講師陣からのアンケート回答では、「指導者からみた課題への取り組み達成度」が65.4%であった。参加者たちは公演舞台を作るための教養や第三者に魅せる表現に取り組むことで、地域文化に参加する舞台人として、精神的にも大きく成長したと言える。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

当館の掲げる各事業は、ホール付きプロオーケストラを有する当館の強みを最大に活かし、岡山市内および岡山県下の小・中学生にその体験の場を提供し、地域の芸術文化の水準向上に寄与することを目指している。そのため、次の5点を強化すべく、公演・人材養成及び普及事業を展開してきた。

- ①優れた音楽芸術・舞台芸術の鑑賞機会を提供する。【文化芸術性・都市ブランドの向上】
- ②未来を担う子どもたちに本物の音楽に触れる機会を提供する。【心豊かな教育への貢献】
- ③地域の芸術文化を担うアーティストを育成し、表現の機会を提供する。【明日を担う人材育成】
- ④日常的に文化芸術に触れる機会の少ない人々へ鑑賞機会を提供する。【社会的包摂の取組推進】
- ⑤まちづくり、観光などの施策と連携して岡山の社会の活力向上をめざす。【岡山の活性化】

「おらが町のオーケストラ」を掲げる「岡フィル」の活動拡大と知名度の向上は、オーケストラを有する地域のブランド力向上にもつながり、①および⑤に経済効果を生み出すことになる。また、その過程で、地域の人々とくに未来を担う子どもたちに音楽への親しみを持ってもらうべく芸術鑑賞の機会を設けることは、②及び④の強化にもなりうる。さらに未来の芸術文化を担う人材の表現の機会を提供する活動にも特に力を入れて取り組むことにより③の目標達成にもつなげた。

近年では、プレイヤーのみならず、音楽を含む舞台の裏方に専門学校や大学からのインターンシップを受け入れ、実際に舞台に関わる業務を体験してもらい、将来の人材育成を図っている。岡山シンフォニーホールにて開催した岡山フィルハーモニック管弦楽団の定期演奏会や特別演奏会などでは、実際にインターンシップの学生たちにも参加してもらい、舞台の組み立てやお客様対応を現場で学ぶ機会を設けた。この取り組みは、地域の学校との連携を図るのみならず、舞台・音楽・芸術に関わる仕事への強い関心を学生たちに促す場にもなっており、今後への継続を予定している。

今後、必要となる組織活動を持続的に発展させるための試みとしては、⑤「まちづくり、観光などの施策と連携して岡山の社会の活力向上をめざす」ことで、岡山における経済活動の活発化を図ることである。そのためにも、岡山市街中心部に優れた音楽ホールとオーケストラがあるということを地域内外にアピールし、国内外の交流人口の増大のための要因となる観光資源にまでその地位を高めねばならない。

岡山の現状は、オーケストラに触れる機会が少なく、鑑賞人口もまだ少ない状態である。県内の音楽ファンたちは県外に見たいもの・聴きたいアーティストを求めている状態が常である。この現状を覆す一手として、地元オーケストラの質・量共の更なる充実と地位向上は必要な要因である。オーケストラを介し、地元実演家の育成にも注力することで、地域のオーケストラ文化・オペラ文化発展の人材面での基盤づくりを目指す必要があるのである。そのためにも、まずは、音楽・舞台鑑賞人口を増やすべく、近隣および各地域へと積極的に演奏に繰り出すなどの活動が求められる。

公演事業を基盤に、人材養成事業にて舞台人の育成を試み、普及事業にて近隣および周辺地域と若年層に芸術への興味関心を促す、このバランスを保ちつつ事業を継続運営することが、劇場・音楽堂を核とする芸術文化活動の発展へとつながると考えられる。

令和3年夏頃に開館予定の岡山芸術創造劇場の運営も担う当財団の新たなミッションとして、岡山シンフォニーホールと岡山芸術創造劇場の2館が各々の持つ特性と強みを発揮しながら相互に相乗効果を図り、当該エリア全体として芸術文化の創造発信、及び人材育成を行っていくこと目指している。そのことによりさらに芸術文化に親しむ人口の増加と裾野の拡大により名実ともに「文化芸術都市 岡山」の構築につなげて参りたい。